片山タイムズ

第六号

令和四年
十月吉日

今月の点前

中置点前

台目の中置点前を10月のお稽古で実施します。この一か月しかお稽古しないのでベテランの方もうっかり間違ってしまうこともあります。

来月より炉になりますが、風炉の最後である十月は少し肌寒くなっておりますので、客に釜を近づける事で暖かみを感じていただくための点前です。

台目中置点前

とはいうものの、たぶんまだまだお稽古場にはエアコンが必要かもしれませんが。

釜は点前座の中央、となりの水指は細水指を使います。

その他注意点等ありますのでお稽古でご確認ください。

七事式

通常のお稽古と別で、現在七事式を平日5名参加者が集まった日に開催しています。

参加者の中で『**「花月」や「七事式」ってくじを引いたちょっとした遊びですか？**』と聞かれましたので解説します。

茶道の七つの式法として、皆さんによく行ってもらう「花月」や「一二三(いちにさん)」、「廻炭(まわりずみ)」、「且座(しゃざ)」、「廻花(まわりばな)」、「茶かぶき」、「員茶(かずちゃ)」の総称です。表千家七世如心斎宗左が裏千家一灯宗室とともに制定しました。

このような「七事式」ができた時代背景は、江戸時代の太平の世の中でお茶がだんだんと華美で贅沢なものになり、一種の遊芸や娯楽となったことの危機感から生まれたものです。

裏千家ではこの後玄々斎宗匠が、「花寄之式」を復興させたり「仙遊之式」などを制定し歴代家元が多くの「式」をつくられています。現在では24種類裏千家ではあります。

ちなみに「七事」は『碧巌録』にみえる「七事随身」（指導者としてそなえるべき七つの徳）の語にちなんでいるとのことです。

ですので、足の運び方、お茶の点て方、お花の入れ方や、茶に対する姿勢など、茶道をお稽古する身の修練法であって、決してお遊びではないのです。

花月のお稽古の様子

本から伝えたいこと

片山タイムズ8月号の本の紹介で「守破離」という言葉が出てきました。ほかのご宗家の方はどのように解釈しているか、ご紹介します。

伊住宗匠のご本、「エンプティの時間」の中ではこのように書かれています。

エンプティの時間

守破離

❝「規矩作法守りつくして破るとも離るるとても本を忘るな」茶道を大成された千利休の教えを簡潔に伝える道歌の末尾にこの一節はある。私流（伊住宗匠）の解釈を述べると守は基本を修めること、破は応用、離はオリジナリティの確立とでも言えようか。

（中略）

茶道はコンパクトカルチャーとも縮みの文化ともいわれる日本文化の中で、唯一総合的な文化体系を存続させて来た稀有の存在である。その中身には建築・庭園・工芸・懐石・着物・点前作法といったソフトからハードにいたるまでの広さと深さをもっている。しかし現状においてはその文化力を表現しきれていないように思う。というのも茶道という存在が一般的にはまだまだ伝統文化のひとつ、単なる稽古ごとのひとつにしか数えられていないからである。

（中略）

型の文化といわれる日本にあって点前作法中心のいわゆる稽古主体となる点はいたしかたないのかもしれないが、点前作法も茶道のひとつの構成要素なのである。❞

と書かれていました。

「破」応用、「離」オリジナリティの大切さやそれが欠けている現状の憂いを感じますが、やはり基本の点前作法が重要な構成要素であり、普段のお稽古で「守」基本を修めていきましょう。

京都国立博物館特別展

京（みやこ）に生きる文化　茶の湯

京都国立博物館では、特別展　「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」が開催されます。

10月8日から開催されます。非常に勉強になりますので、お時間がある方は観に行かれるとよいかと思われます。

数年前東京国立博物館で開催された「茶の湯展」でも出されました。「窯変天目」「油滴天目」や利休作「タヽイへ様参」の茶杓など紹介しきれないほど魅力ある軸や茶道具が目白押しです。

特別展のお知らせ

成道寺　記念茶会

片山タイムズ7月号に掲載しておりました、焼津成道寺の薬師瑠璃光如来像の御開帳に合わせての茶会が10月1日に開催されました。

当社中からもお席への参加及び5名の方にお手伝いで参加いただきました。ありがとうございました。

お点前をする土屋さん

片山社中 all rights reserved.